

ご挨拶

本日は竹心会本曲研究会「独り吹きのかい」にご来場いただき、演奏者一同厚く御礼申し上げます。

この会は、私達の師横山勝也の七回忌に開催された門下生による「一人吹きのかい」を機に、師なき後個々に稽古を続けていく中で我流に陥ることなく、師が求め続けた尺八楽の研鑽を積めるように定期的な勉強会を持つとうということによって2017年に始まりました。

かつて師の稽古場では、互いの演奏について自由に感想を述べあうことで自分の演奏がどのように受け止められているのかを確認し、また他人の演奏をしっかりと聴くことで理想とする曲のイメージをより的確に捉えるための一助としてきました。この方式を踏襲し、プロとして活躍されている方々からのアドバイスや、指導を受けた年代ごとの思い出の中からも師が求めた尺八楽に迫ろうとしています。

昨年は新型コロナウイルス騒ぎで多くの演奏会が中止となり、プロの演奏家のみならず尺八愛好家も我慢を強いられました。本日の演奏会においてもご来場の皆さまに感染拡大防止対策へのご協力などお気遣いをいただくこととなりますが、演奏者の1曲に注ぐ一生懸命が皆さまに伝わり、尺八楽の発展ならびに皆さまへのエールとして寄与することができれば幸いです。

岩橋庸一（竹心会本曲研究会幹事）

「吹定」横山先生筆



プログラム

- 1 瀧落 沼倉 久仁男 2尺4寸管
日本には名瀑と言われている滝はたくさんありますが、私は（サラサラサラ）と流れる茨城の（袋田の滝）が大、大、大好きです。今回は皆様をこの滝に御案内 ???、致したいなあ、と思いがら吹いてみます。。
- 2 古伝巢籠 岩橋 庸一 1尺8寸管
ツル・コウノトリ・トキ・ハクチョウ 古の人々は大空を悠然と舞う白い鳥に神聖を観たのだらう。その想いに共感を込めて。
- 3 虚空 山本 貴之 2尺7寸管
虚竹禅師が朝熊山の虚空蔵堂で仮眠中に音を聞いた事に着想を得て作曲し、霧が晴れた時に空に響いた妙音より虚空と名付けられた曲。
- 4 山谷 土屋 雅章 2尺7寸管
山谷は勝也先生との最後の練習曲でした。
—————10分休憩—————
- 5 三谷 池上 直斗 2尺4寸管
三谷は古典本曲の中でもメロディーの美しい曲です。ひとふしひとふし想いを乗せて演奏します。
- 6 心月 熊本 圭吾 2尺1寸管
会が無事に開催されますことを、心より祈念しております。
- 7 根笹調・下り葉 田畑 智史 2尺管
ずっと課題を感じていた曲に向き合いました。曲の面白さと自分なりの個性を活かした演奏ができればと思います。
- 8 霊慕 今井 祐介 2尺4寸管
一音一音心を込めて演奏させて戴きます。
—————10分休憩—————
- 9 虚空 高橋 響 3尺管
横山先生が亡くなる直前の最終レッスンで稽古していただいた曲です。その時のコメントはもう覚えていませんが、自作の長管でこういう曲を吹くのが夢でした。
- 10 打波 島津 和人 2尺4寸管
この頃通院することが増え、あ～その原因は加齢・・・
次々と迫りくる煩惱を打ち破(波)れ！！

11 松巖軒鈴慕 竹内 一裕 2尺4寸管
この曲が持つ哀愁と寂寥感に溢れた旋律がとても好きなので、一音一音に気持ちを乗せて演奏したいと思います。

12 息観 佐々木 徹 3尺1寸管
息の中に自己を観る、本曲らしい趣が凝縮された曲です。かねて製作を依頼していた三尺管を三年越しで手にしたのが2年前。自在に吹ける域には遠いですが、至福の響きがあふれ出るこの大管に身を委ねたいと思います。

13 産安 小濱 明人 2尺4寸管
横山先生が大切に吹き続けてきた憧れの曲「産安」。叙情的にしてドラマチック、複雑な技巧がふんだんに詰め込まれたこの名曲を吹く度に、自らの未熟さを痛感いたします。この度、この大なる曲に挑戦できる喜びを噛み締め、吹奏させていただきます。

—————10分休憩—————

14 鶴の巣籠り 泉 武夫 1尺7寸管
「鶴の巣籠り」は、霊鳥と尊ばれた鶴の親鳥が命がけで雛を護る姿に託して、大慈悲の境地を表す、とされる古典本曲です。伝承系統や地方によって種々の同名異曲があります。演奏曲は仙台地方の伝承とされ、譜に「奥州伝」の頭書があります。この原曲は私見によれば、じつは仙台北方の虚無僧寺・金成寺きんじょうじで活躍した小野寺源吉（1859-1928）が津軽弘前の錦風流きんぷうりゅうに伝え、錦風流 別伝曲として流布したものです。「布袋軒ふたいけん巣籠り」とも呼ばれます（後世の人が仙台近郊の虚無僧寺・布袋軒の伝承になぞらえた）。曲は大きく前後二段からなります。夜明けの描写にはじまり、鶴のさまざまな飛翔の態を表しています。「玉音たまね」という喉を震わせる技法を駆使するのも特色です。前段と後段の間に「子別れの手」という印象的旋律があるのですが、これは錦風流の吹き手・乳井健道にゅういけんどうが挿入したものです。健道から大阪の広澤静輝に伝えられ広まりました。なお、横山師門では前段の直後に即興を入れるヴァージョンがあり、今回も演奏者作による能管風の短い即興旋律をさし挟んでいます。短い地無し管で吹奏します。

15 霊慕 眞玉 和司 2尺7寸管
先人の霊に。

16 浮雲 柿塚 香 2尺4寸管
横山先生のレパートリーの中ではもっとも演奏頻度の少なかった曲ではないでしょうか。それだけに未消化の部分も残っているように思います。なんとか少しだけでも消化を進めることができたらと願っています。

17 七段 鶴の巣籠り 古屋 輝夫 2尺7寸管
横山先生は海童道祖師から鶴の巣籠りに関してただ一言『凡ての技を捨てよ』と伝えられたと伺いました。霊鳥たる鶴の示す親から子への愛情すなわち大慈悲の境地を我が物にしたいと吹き伝えられて来ながら、技に夢中になり技のオンパレードにしかかなりかねない危うさを戒める言葉と解します。分かっているのですがはてさて。心して奏します。

—————終演—————

【解説】尺八と古典本曲

尺八の由来と本曲 尺八は、正倉院の御物ぎよぶつにもあるように奈良時代には中国から伝わり、主に雅楽に用いられていましたが、雅楽尺八または古代尺八とよばれたこの種の楽器はいつしか表舞台から姿を消しました。やがて鎌倉時代ごろから現在の尺八と同じ竹製の尺八が現れ、のちに虚無僧こむそうと呼ばれる人々により禅の修行の一つとして吹奏されました。座禅に対してこれを吹禅といいます。のちに尺八は箏との合奏などにも使われるようになりますが、こうした合奏曲に対して虚無僧が吹いていた曲は尺八本来の曲の意味で「本曲」と呼ばれます。古来伝えられた曲であることを明示するために「古典本曲」とも称します。私たちの師、横山勝也氏が吹いた本曲は、その師、海童道祖わたづみどうそが伝えたものです。

尺八の作る音階 尺八の指孔しこうは、前に4つ、後ろに1つの全部で5つです。すべての指孔を閉じた状態から指孔を一つずつ開けていくと、標準の1尺8寸管の場合、ハ長調のレ、ファ、ソ、ラ、ド、レとなり、これは追分節にも使われる日本の代表的な音階(陽旋律あるいは田舎節音階いなかぶしといえます)で、陽気な曲調となります。尺八という楽器はこの陽旋律に沿った構造を持っているわけです。

日本の代表的な音階にはもう一つ、レ、ミ♭、ソ、ラ、シ♭、レという音階(陰旋律あるいは都節音階みやこぶしといえます)があり、島原の子守唄のように情緒的な曲調となりますが、この音階を尺八で出すには、指孔を半分閉じ、息を吹き込む角度を深くする(顎を引く)、メリという技法を駆使しなければなりません。吹奏の上で難易度の高くなる陰旋律ですが、虚無僧が吹いていた本曲は、ほとんどがこの陰旋律で作られています。楽しむためではなく禅の修行の一環として吹く曲としては、明るい曲調の陽旋律はふさわしくなく、難易度は高くとも陰旋律が求められたといえます。

音程、音色の自在さ 尺八は歌口と5つの指孔をもつ竹筒に過ぎない非常に単純な構造の楽器で、吹くのは決して容易ではありませんが、この単純さが逆に奏者に大きな自由を与えています。低い音程を得るためのメリは難易度の高い技法ではあるものの、むしろ、音程を自在に操ることを可能にし、深みのある音色をも生み出しました。また、息の荒々しい音が混じるムラ息も尺八の魅力です。音程、音色の自在さは、尺八の大きな特長といえましょう。

そうした尺八の魅力が最もよく表れているのが古典本曲ということが出来ます。

間まと自由リズム 古典本曲のもう一つの特徴は、2拍子など拍節的なリズムの曲は稀で、ほとんどが音の長さが奏者に任された自由リズムの曲であることです。どれだけの長さを取るかは、日本音楽の特徴としてよく言われる「間」とも深くかかわります。最良の間合いを図るため、奏者は曲への解釈を常に深めることが求められます。

境地の音楽 音程、音色を自在に操り、自由リズムの中で最良の間合いを探し求める。それが尺八古典本曲の魅力であり、古典本曲は歴代の尺八家の、日本人の英知の結晶といえます。ただ、これは完成されたものではなく、これからの尺八家がさらに解釈を重ねて、より高い境地を目指していくべきものと横山勝也師は常々話していました。その境地を目指すべく、師の歩いた道を私たちも一歩ずつ歩んでまいりたいと思います。

演奏曲の解説

瀧落 たきおち 伊豆、修善寺にある龍源寺りゅうげんじという虚無僧寺で、琴古流きんこの流祖、黒沢琴古が朝日滝という滝を眺めて作った調べといわれる。

古伝巢籠 こでんすごもり 鶴は親子の情愛の深い鳥といわれ古来れいちよう霊鳥れいちょうとされている。「鶴の巢籠り」どうめいの同名異曲の中で、古伝とあえて付されていることから原形に近いと思われる。

虚空 こくう 東北地方の曲。700年前の調べとも伝えられる。曲名は一切の事物を包容してその存在をさまたげない無為法むゐほうを意味するという。

山谷 さんや 東北地方に伝わった曲。各地に伝わる「さんや」系の曲のなかでも最も静かで悠久とした曲である。

三谷 さんや 中京所伝の曲。曲中に三つの起伏があり、それが曲名の由来という説がある。同名異曲も多い。

心月 しんげつ 「心月孤円しんげつこえんにして 光呑万象ひかりぼんしょうをのむ」という澄みきった境地を表す曲といわれる。全体に静かな調子であるが、それを突き破る後半冒頭の旋律が全体の静けさを強調している。

根笹調・下り葉 ねざさしらべ さが は 津軽根笹派の曲でコミ吹きという、あたかも北風が根笹の藪を吹き抜けていくような息の使い方とリズム感に特徴がある。

霊慕 れいぼ 東北地方の伝承と思われる。同名異曲の多い鈴慕の一つ。鈴慕とは中国の傑僧けつそう、普化ふけ禪師ぜんじが行鉢ぎょうはつ時に鈴を鳴らしたとの故事から、その禅風を慕う意。

打破 だ は 十字街頭じゅうじがいとうに托鉢たくはつした時の調べ。繰り返し打ち寄せる波のイメージを持つと同時に、「打破」にも通じ、殻を破って新しいものを生み出す力の表現にもなっている。

松巖軒鈴慕 しょうがんけんれいぼ 岩手県の花巻にあった虚無僧寺の松巖軒に伝わった鈴慕。寂寥感あふれる旋律により、多くの人の知るところとなった。

息観 そっかん 低音の一息一息に自己を没入させ、心眼に映して本質をみつめることをめざすと伝えられる。

産安 さんあん 新潟地方に伝えられた曲で、古来、安産祈願の曲とされている。幕末の名手、神保政之介じんぼまさのすけが好んで演奏したことから神保三谷とも奥州薩慈とも呼ばれる。

鶴の巢籠り つるすごもり さまざまな飛翔の姿や鳴き交わりの様子を表現している。同名異曲が数多く伝わる。仏教の大慈大悲だいじだいひを表すとされる。

浮雲 うきぐも 伝承、発生についてははっきりしたことがわかっていない。大空を行く雲のように自然体で形を自在に変えながら流れていく境地を表したものといわれる。

竹心会の本曲に関心のある方は当研究会のウェブサイトまで

<http://chikushinkai.cool-music.org/>



竹心会 本曲研究会 尺八演奏会

独り吹きのか

Vol. 2

横山勝也師の歩いた道を一歩ずつ



2021年3月6日（土） 14時開演

すみだトリフォニー小ホール